



デジモンテイマーズ

第14話

テイマーよ立て！  
メガログラウモン超進化！

第二稿

脚本ノ小中千昭

Animation Play by Chiak J. Konaka

2001ノ03ノ29

登場人物

松田 啓人「タカト」(10)  
李 健良「リーくん/ジェンリヤ」(10)  
牧野 留姫「ルキ」(10)

ギルモン                    グラウモン                    メガログラウモン  
テリアモン                ガルゴモン  
レナモン                    キュウビモン  
クルモン  
インプモン

加藤 樹莉(10)  
塩田 博和(10)  
北川 健太(10)

山木満雄(32)…………… ネット管制室長  
鳳 麗花(26)…………… チーフ・オペレーター  
小野寺 恵(23)…………… オペレーター

【仮想円卓会議】声1 (官房長官)

声2 (科技省次官/女性)

声3 (七話登場の監査役)

技術者達

ミヒラモン

前話リプライズ

N 「ネットワーク監視システム・ヒュプノスを司る山木は、デジモン達を一斉に消去してしまうべく、シャツガイを起動させた。しかしその底知れぬ力は、リアル・ワールドともう一つの世界の壁を、突き崩そうともしていた」

南新宿デッキ

クルモンを襲おうとしていたインプモン、蒼くうねる空を見上げる。

インプモン「な——何だよ……この変な——」

クルモン「クルモン、何か怖いでくるー」

前話リプライズ/ジエンの部屋

ジエン「テリアモン！（慄然）」

テリアモン、狂ったように窓を叩いている。

その窓の向こうには、青い渦が夜空に巻いていた。

「ごおおおおお！」

ジエン「何が起こっているんだ……」

靖国通り（外苑西通り交差点近く）

空を見上げながら走る留姫。

留姫「——デジタルフィールド……？ 違う……！ 何で——

何であんなに大きいのに……」

留姫を追ってビルの間を駆け抜けるレナモン。

西新宿/都庁近くの歩道橋上

サンガラスを外し山木、あたかも夜空に満席の客がいるが如く、挨拶。

山木「さよならだ、無秩序なる獣たち」

サブタイトル

新宿都庁地下/ネット管理局R&Dセンター

ゴオオオオオオ！ 巨大な光ケーブルの束の中を、  
光の奔流が凄まじい勢いで旋回している。

都庁内/ネット管理局管制センター

ヒュプノスを青い渦が埋めつくしている。

麗花「(慄然)——凄い……」

恵「(必死に職務に向かい) ネットワークの物理レイヤー、  
完全にシャツガイの制御下に入りました。各所に遍在し  
ているワイルド・ワンが集められていきます！」

グリッドが中央に向かって集中。

都庁近くの歩道橋上

パームデバイスでヒュプノスをモニタしていた山木、  
山木「そうだ、お前たちの墓場はここだ。最初から存在してい  
ない、そういう事になる」

と、下からタカトの声。

タカト「(オフ) ギルモン!!」

山木「！」

歩道橋下

駈けてきたタカトとギルモン、都庁上空に広がる渦  
を見上げている。

タカト「こ、これって……、何が起こっているんだらうっ!!」

ギルモン「——ギルモン、何か変だよタカト」

タカト「えっ? どうしたの?」

ギルモン「何か——、身体の中で——、ワギワギシャーシュー」

タカト「（困惑）えっ？ どういう意味？ それじゃ判んないよ」  
ギルモン「——ギルモンの身体が熱くなってるんだ」

ギラギラと目を光らせ見上げるギルモン。

タカト「——ギルモン……」

管制センター

渦に巻き込まれ、消滅していく輝点。

麗花「ワイルド・ワンが——消えていく……」

轟音の中に——、微かに聞こえるデジモンの叫び。

恵「（耳を抑え）やだっ！ 怖い！」

キツとなつて麗花、素早くパネルのスイッチ操作。

麗花「シャッガイ、ワイルド・ワンの消去中。物理レイヤーの

占拠終了まであと——8秒」

歩道橋下

見上げているタカトの前に、山木立つ。

タカト「！」

山木「いずれ、こつちの世界に現れた異物も廃除しなきゃな」

タカト「廃除……、（ハツと見上げ）あれはデジモン達を……」

山木「今まで生き延びてこれただけでも幸せに思うべきだ」

ギルモン「（山木に威嚇、喉を鳴らし）グルルル」

山木「君たちの遊び相手は、ただのお友だちなんかじゃない。

極めてタチの悪い人工知性でしかないのだ」

タカト「そんな事、ないぞ！ デジモンは——人間と友だちにな

ってるデジモンはいっぱいいるよ！」

ゴオオオオオ！ 青い渦——。

山木「（ふと怪訝）ん……？」

渦の中央に、黒い柱が見える。

山木「何だあれは……。 （パームデバイスに）ヒュプノス！」

管制センター

麗花「山木室長！ シャツガイの渦の中に――、巨大な何か  
リアライズしています！」

山木の声「どういう事だ！ そんな事が起こる筈が無い！」

恵「（悲痛）大きい！ 大き過ぎるよ！」

山木の声「落ち着け！」

シャツガイの操作パネルがヒートし始めた。

技師「うあっ！」

ビシビシビシ！ パネルが割れていく。

#### 西新宿遠景

渦の中央から巨大な八角柱が降下してくる。西新宿  
一帯にデジタル・フィールドの幕が掛かる。

#### 松田ベーカーリー／居間

新聞を読んでいたタカトの父、点けていたテレビの  
異状に気づく。

タカトの父「ああ？」

通常番組に奇妙な図形がノイズ混じりに表示される。

#### 都庁前の道

ズズズズ……。巨大八角柱が降り立つ。

山木「（愕然）こんな事――、起こる筈……！」

シューウウウウ……。八角柱が引きずり込んだデジ  
タルフィールドの霧が濃厚に辺りを包む。

ピーツ ガリガリガリツ！ うわっ、と耳からレシ  
ーバを叩き落とす山木。

ふと気づくと、パームデバイスの液晶に、あの奇怪  
な姿の影が浮かんでいる。

山木「？」

八角柱にびっしりと刻まれていた紋様が黄色に輝く。

山木「（僅かに震えている）こんな、こんな事……、絶対……！」

と、八角柱からくぐもった声が轟いた。

声 「我等を造りし人間よ。我等は我等自身の神に従う」

山木 「喉がカラカラに）なん、だって……？」

声 「人間は最早、我等の果てし無き進化を助くるのみに存在する」

山木 「ふざけた事を！ 人間がお前達を助けるだけの存在……」

声 「その証が、これだ。人間は我々に道を開いた」

ドオオオオン！ 八角柱が虚空に光を放った！

その筋は周囲に ゾーン の質感のトンネルを開く。

タカト 「！ あの模様！ 前に見た事がある！」

山木 「なっ、何なんだよあれは！」

タカト 「こつちの世界とあっち、デジタルワールドが重なってるんだ！」

山木 「まさか——、まさかこの私が——、奴らの為に、奴らが自由に入り出来る穴を開けてしまったのかよ！」

管制センター

恵 「（悲痛）ワイルド・ワン、急速リアライゼーション中！

こんな大きな——、信じられない！」

西新宿遠景

デジタル・フィールドの幕に覆われた都庁群。

その中央に——、巨大なデジモンが降下してくる！

巨大な——あまりに巨大な虎の如き姿・ミヒラモン！

都庁前

降下したミヒラモン、咆哮。

タカト 「——で、でかすぎ……」

ジェン 「（オフ）タカトくん！」

ハッと振り向くタカト。

ジェンと留姫、テリアモン、レナモンを伴って走っ

てくる。

タカト「リー君！ 留姫！」

ジェン「（山木を見て）！ あなたは——」

山木「（レナモン、テリアモンを見て）この世界の秩序を狂わせてるんだぞ！ お前達は！」

山木、走っていく。

テリアモン「もーまみたいー（ふにゃー）」

レナモン「（見上げながら）留姫」

留姫、ハツとなってDアークを見る。

レナモンPOV

咆哮するミヒラモン。

しかし、データ・ウィンドウは開かない。

留姫「（オフ）データが無い。こんなデジモン、存在し——」

と、デジモン文字が急速スクロール。

都庁前

ジェン、自分のDアークを見ている。

ジェン「データベースがリアルタイムで書き換えられている」

留姫「ミヒラモン——、完全体——」

テリアモン「ジェン、ぼく進化していいよねー」

ジェン「うん！ テリアモン、いくぞ！」

留姫「レナモン！ あたしたちも！」

レナモン「今なら進化出来る！ 留姫！」

留姫「——どのカード……（一瞬迷う）」

タカト「進化フェイズカードだよ！」

ジェン「やってみよう！」

ジェンと留姫、カードを構える。

ジェン+留姫「カードスラッシュ！」

進化バンク



テリアモン、ガルゴモンに。

テリアモン「テリアモン進化っ、ガルゴモン！」

レナモン、キュウビモンに。

レナモン「レナモン進化！ キュウビモン！」

都庁前

進化した二体、ミヒラモンの眼前に向かっていく！

ガルゴモン「ええいつ」

ドガガガガガ！ ガトリング砲炸裂！

レナモン「狐葉楔！」

レナモンの光の刃、ミヒラモンに！

ヒロカズの部屋

つまらなそうにゲームをやってるヒロカズとケンタ。

ヒロカズ「——なあ」

ケンタ「——なに」

ヒロカズ「俺さあ、デジモン……」

ケンタ「デジモンが、何」

ヒロカズ「なんでもない」

ケンタ「——タカトがうらやましい？」

ヒロカズ「そんな事！——」

都庁前

タカト「ギルモン！ ぼくたちも行くよ！」

ギルモン「ギルモン、進化する！」

カードを構えるタカト。

タカト「カードスラッシュ！ 進化プラグインS！」

火花を散らしてカードがスロット！

進化バンク

ギルモン、グラウモンに。  
ギルモン「ギルモン進化ああ！ グラウモン！」

都庁前

グラウモン叫ぶ！

ミヒラモン、ガルゴモンをたやすく地へ叩き落とす。

ガルゴモン「わああん」

ジエン「ガルゴモン！」

キュウビモン――

キュウビモン「鬼火玉ッ！」

キュウビモンの放った火球、睨みを利かし、ミヒラモン鼻先に――

ゴオオオオオ！ ミヒラモンの鼻息でかき消される鬼火玉たち。

ヒロカズの部屋

窓から住宅街の屋根の向こうを必死に見ているヒロカズとケンタ。

ヒロカズ「今の光……」

ヒロカズとケンタ、顔を見合わせる。

窓からダッシュで離れ、階段を降りていく音。

都庁前

留 姫「これが完全体……まるで究極体みたい――」

ジエン「これまでのデジモンと、クラスが違うんだ……」

グラウモン「エキゾーストフレーム！」

タカト「そうだ！ グラウモン！」

少しダメージを受けるミヒラモン――、怒りを露にしてグラウモンに向かって巨大な口蓋を開き――

迫るミヒラモンの牙！

グラウモン、大柄な身体を俊敏に動かし、反転。

タカト「ああっ！ 危ない！」

グラウモン「プラズマブレイドッ！」

果敢に攻撃を仕掛けていくグラウモン！

グラウモンの光の剣がミヒラモンの目を貫く！

ミヒラモン「ぐおおおんんんんんん！」

激しく咆哮するミヒラモン。

住宅街の道

買い物帰りの樹莉、ただならぬ気配に立ち止まり、都庁の方を見上げている。

樹莉「な、に……？」

都庁前

タカト「いけええええっ！ グラウモオオオン！」

グラウモン「がおおっ！！！」

タカトとグラウモンのアクションがシンクロ。

ミヒラモンの片目が凶々しく輝く。

タカト「ニ」

鋭い牙の並ぶミヒラモンの口蓋が開き——、グラウ

モンの肩を噛む！

グラウモン「ぐわぁっっ」

x x x

一瞬何が起こっているのか判らないタカト。

タカト「——え……」

突如認識される、自己を襲った激痛！

タカト「うっ、ウアアアッ！」

タカト、肩を抑えて苦しむ。

住宅街の道

バサっ、と買い物籠を落とす樹莉。

樹莉「松田君！」

都庁前

ミヒラモン、グラウモンを口蓋で掴んだまま、身体を引き上げていく。

グラウモン「くっ、——はっ、離せええ！」

× × ×

タカト、肩を抑えて、痛みに顔を歪ませ、膝をつく。  
タカト「ぐ、グラウモン！」

ジェンと留姫、タカトの異状に気づき近づく。

ジェン「タカト君！ タカト君！」

留 姫「ど、どうしたの？ 何なのこれは？」

タカト「ぼ、ぼく……」

ジェン、怒りに身を震わせ——

ジェン「ガルゴモン！」

× × ×

ガルゴモン、ダツシュ——

ガルゴモン「だむだむあっぱーっ」

ゴオオオオオ！ 凄まじい勢いで振り上げられるガ  
ルゴモンの腕！

ガン！ ミヒラモンの顎下に炸裂！

弾みでグラウモンの身体、転落！

× × ×

留 姫「キュウビモン！ カードスラッシュ！ MAXチャージ

ヤー！」

× × ×

キュウビモン、持てる力を倍に！

キュウビモン「狐炎龍！」

龍の形の炎がミヒラモンの頭部を焼く！

ドオオオオオン！

倒れ落ちるグラウモンの身体——、それが量子化ノ

イズに分解し始め——

× × ×

タカト「（朦朧とした意識）——グラウモン……」

頭上から、幾筋ものサーチライト。

へりの音が遠鳴りに。

ジエンの声「（遠くオフ）タカト君！ タカトオオオオ！」

### 西新宿遠景

都庁前にうづくまる巨体。

その頭上に、コブラ・ヘリ編隊が集結。

けやき橋商店街から見たその光景——。

デジタル・フィールドの霧の中で判然としない。

松田ベーカリーでは——

### 松田ベーカリー店内

へりの音が聞こえる空。扉を開け見上げているタカ

トの父。奥からタカトの母が

タカトの母「どうしたの？ 何かあった？」

タカトの父「さあ。ニュースで何か言ってるか？」

母、リモコンでテレビをザップ。

タカトの母「（怪訝）何にも……。何か今夜、映りが悪いみたい」

ノイズ塗れのブラウン管。

### 青い世界

タカト、眠っている。

青い霧が立ち込めている。

静寂——。否、滴がしたたる音が僅かに聞こえる。

湖面の様な床。タカトは、うづくまるグラウモンに

もたれて眠っていた。

二人から波紋が広がっていく——。

タカト「——ん……」

タカト、目を覚ます。

タカト「グラウモン……？」

グラウモンは未だ目覚めない。

タカト、身を起こす——と鈍痛が肩に。

タカト「いつ、つたたたた」

肩を抑えるタカト。

タカト「——！」

グラウモンの肩、ダメージを受けている。

タカト「——グラウモンが肩を噛まれたら、ぼくまで肩が痛くな

った……。何で……」

グラウモン、目を少し開ける。

グラウモン「……タ、カ、ト……？」

タカト、グラウモンの顔を抱き、さする。

タカト「グラウモン、大丈夫？」

グラウモン「ぼく、頑張ったよ」

タカト「うん！」

タカト、涙が浮かぶ。

グラウモン「でも……、ぼく、負けちゃった」

タカト「（激しく首を振り）まだ負けてない！ グラウモン、負

けてないよ！」

グラウモン「——そう……？」

タカト「ぼくが、ぼくがまだタイマーとして一人前じゃないから

グラウモンを傷つけちゃったんだ！ ぼくが悪いんだ！」

グラウモン「タカト……」

滴が落ちる音が大きく響く。

タカト「——ここ、どこだろう……」

見回すタカト。

霧の向こうに、ぐるぐると回る壁が見えた。

そのテクスチャは——

タカト「ここ、前に来た事がある気がする……」

グラウモン「ぼくたちはここで生まれた——」

タカト「えっ？」

グラウモン「テリアモンも、レナモンも、みんなここで生まれた

んだよ、タカト」

タカト「ぼ、ぼく——、デジモンの世界に、いる……」

グラウモンの肩のダメージが修復していく。

タカト「グラウモン——、もう大丈夫なの？」

グラウモン「タカトは？」

タカト、肩を回してみる。

タカト「——あ、痛くないや！」

グラウモン「タカト」

タカト「何？」

グラウモン「ありがとう」

タカト「（小声で）え……、何で……」

グラウモン「ぼくのパートナーになっけてくれて」

タカト「——ぼくの方こそ」

グラウモン「ぼくをもっと強くしてよ、ティマー」

タカト「！——ティマー」

グラウモン「そう、タカトは、グラウモンの、ティマー」

タカトの顔、強くなって——

都庁前

ドガガガガガ！

コブラ・ヘリ、機銃掃射でミヒラモンに攻撃。

ミヒラモン「ぐおおおおッ！」

ミヒラモンの咆哮に呼応し、八角柱が輝く。

ヘリ・コクピット

HUDに激しいノイズとデジモン文字が錯綜表示。

パイロット「うわああッ！ 操縦不能！ メーデー！」

視界がグラリと傾いだ。

無線声「（オフ）回避しろ！」

都庁前

散っていくヘリ群。

その下——、歩道橋近くではジェンと留姫が、座り

込んだタカトを心配そうに見つめている。

ジェン「タカト！ タカト！ どうしたんだ」

留 姫「ねえしつかりして！」

タカトの目に光が戻った。

タカト「——リー君？ 留姫……？」

ジエン「（安堵）気がついた！」

留 姫「タカトの体、今ずっとぼやけてたの……。あたし、タカ

トがこのまま消えちゃうんじゃないかって……」

タカト「ぼく……（あ、）みんなのデジモンは？」

留 姫「（目を伏せ）」

ジエン「（沈痛に）ガルゴモンとキュウビモンはダメージが強く

て、向こうの公園で休んでいる」

タカト「！ グラウモンは……」

留 姫「消えちゃったのよ！ どこかに消えちゃったの！」

タカト「え……」

と、背後からグラウモンの声。

グラウモン「いるよ！ ぼくはここに！」

ぬっと、顔を出すグラウモン！

タカト「（笑み）グラウモン！ 一緒にいたんだよね！」

グラウモン「いつだってぼくとタカトは一緒だよ！」

グラウモンの頭にちょこんと乗っているクルモン。

クルモン「クルモンも一緒だくるー」

タカト「クルモン！」

留 姫「どうすんのよ！ 一度グラウモンは負けてんのに！」

タカト「負けない！ もう僕たち、負けられないんだ！」

留 姫「え……？」

タカト、目を閉じ——、腰からカードを出して、

一枚を選ぶ！

ふっ、それがブルーカードに変質した。

ジエン「ブルーカードになった……」

タカト「（息を呑んで）——カアアアドスラアアアッシュ！」

グラウモン、ミヒラモンに向かって前進！

クルモン、飛び下りる。

クルモン「（心配そう）くるるー……、また……」

タカト「マトリッククス・エヴォリューション！」

ふ、とクルモンの目が閉じ——、額の星が輝く。



進化

グラウモン「グラウモン進化アアア——  
メガログラウモン！」

都庁前

より強大な力を持ち、より強靱な身体を勝ち得た姿。  
ギルモンの完全体がそこにあった。  
ミヒラモン、驚きの顔。  
声 「何故進化出来る！ 人間などとパートナーとなっている  
お前が、我等が神を崇めぬお前が、何故進化する！」  
ミヒラモン、巨体を震わせ——、メガログラウモン  
に向かつて突進していく！

中央公園

集まってきた子どもたち。  
木立の向こうに見える、巨大デジモンの姿。  
ケンタ「——すげえ……」  
ヒロカズ「——ホントの——、デジモンだ……。ホントに、ホン  
モノの……」

樹莉も駆けてきた。

樹莉「——あれって——、ギルモンちゃん？」  
ヒロカズ「違う、ギルモンが進化した姿——、完全体」  
樹莉「松田君は？」  
ケンタ「テイマーはデジモンと一緒に戦う……」  
樹莉「そんな！」

ドオオオオン！ 激しく激突するデジモン同士。  
樹莉「松田君ッ！」

都庁前

歩道橋の上に立ちはだかるタカト。

タカト「メガログラウモン！」

メガログラウモン「（振り向き）タカト！ ぼくに力を！」

タカト「（頷き）カードスラッシュ！ 強化プラグインW！」

光がDアークからメガログラウモンに伸び――

メガログラウモン「グオオオオオオオッ」

力を全身に漲らせ――

都庁ビル中層／山木の部屋

見下ろしている山木。

背後のモニタには、円卓会議出席者が小さく映っている。

声 1「ここまで騒ぎが大きくなつては報道管制も限度がある！」

声 2「攻撃ヘリの出動を誰が認めたのよ！」

声 3「今は事態収拾を第一に――」

山木、聞いていない。

山木「（呟く）私が……、こいつらをこの世界に引き込んだと  
いうのか……？ この私が……」

都庁前

メガログラウモン「アトミックブラスター！」

怒りの業火！

ミヒラモン、それに包まれ――、爆発！！

ドオオオオオオオオン！

中央公園

ヒロカズ「やった……。 （笑み）ヤッタアアア！」

ケンタ「勝った！ タカトのデジモンが勝った！」

樹莉「――（祈り）松田君……、ギルモン……」

都庁前

メガログラウモン——、パワーを使い果たし、身体を揺らしている。

タカト「！　メガログラウモン……」  
メガログラウモン「タ、カト……、僕、勝った、よ……」

量子化ノイズで消えていくメガログラウモンの姿。

タカト「ニ　ダメだ！　消えちゃ駄目だよ！」

メガログラウモン「僕——、疲れちゃった……」

タカト「僕は君のテイマーなんだアアア！」

タカト、両手をバツと広げる！

ジエン「！」

留　姫「……」

中央公園から走り出てくる子どもたち。

ジエンと留姫が立つところに向かって集まる。

樹　莉「松田君！　松田君は……」

タカト、集まってきたみんなを見上げ、ニッコリ。

タカト「大丈夫。ぼくも——」

タカトは眠っているギルモンを抱いている。

タカト「ギルモンも、元気だよ！」

樹　莉「良かった……（涙ぐむ）」

ヒロカズ「タカト」

タカト「ヒロカズ」

ヒロカズ「タカト、すげえよ。ギルモン、めっちゃめっちゃすげえや」

ケンタ「うん、すげえ」

タカト「うん」

留　姫、僅かに微笑んで見ていたが——

留　姫「レナモン……」

すつ、と背後に立つレナモン。

レナモン「回復した」

留　姫「（微笑）良かった」

ジェンの頭にはテリアモン。

ジェン「大丈夫？ テリアモン」

テリアモン「もーまんたいー」

クルモン「わぁ、みんな楽しいでくるー！ クルモンも楽しいでくるー！」

子どもたちに祝福されるデジモンたち。

以下次回